

理科

1年	物理基礎
1年	生物基礎
2年	物理
2年	化学基礎
2年	生物
3年	物理
3年	物理演習
3年	化学
3年	化学演習
3年	生物
3年	生物演習
3年	理数探究基礎
3年	理科探究

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コースI&Sクラス		理科	物理基礎	必修	2単位	鞠子 和也
教科書	数研「物理基礎」		副教材等	数研 新編 物理基礎 準拠 サポートノート		
授業のねらい	物体に働く力と運動との関係を理解し、運動が基本的な法則に基づいていることを理解する。波の基本的な性質を学び、反射・屈折・回折現象の法則性を理解する。					
学習上の留意点	現象について理解し、公式を覚えるだけでなく意味についても考えるようにすること。					
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験や授業内で行う小テスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	運動の表し方	時刻や時間の違い、位置について理解する。			
		速度・加速度	経過時間と移動距離との関係から時刻と位置との関係を知る。			
1 学 期	期末	落体の運動	落下運動が投下速度運動であることを理解する。			
		運動の法則 さまざまな力	運動の3法則、摩擦力や浮力、運動方程式などの公式を使い理解する。			
2 学 期	中間	仕事と力学的エネルギー	仕事の原理について学び、仕事とエネルギーの関連性を理解する。			
		熱と物質の状態	熱運動や内部エネルギー、物質の三態について理解する。			
2 学 期	期末	熱と仕事	熱力学第一法則や熱機関について学ぶ。			
		波の性質	波の表し方や伝わり方、横波や縦波などを理解する。			
3 学 期	学年末	音と振動	音も波であることを確認し、固有振動について理解する。			

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 進学コースAクラス		理科	物理基礎	必修	2単位	山内 優斗・馬場 幸一 伊藤 和果
教科書	数研「物理基礎」		副教材等	数研 新編 物理基礎 準拠 サポートノート		
授業のねらい	物体に働く力と運動との関係を理解し、運動が基本的な法則に基づいていることを理解する。波の基本的な性質を学び、反射・屈折・回折現象の法則性を理解する。					
学習上の留意点	現象について理解し、公式を覚えるだけでなく意味についても考えるようにすること。					
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験や授業内で行う小テスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	運動の表し方		時刻や時間の違い、位置について理解する。		
		速度・加速度		経過時間と移動距離との関係から時刻と位置との関係を知る。		
1 学 期	期末	落体の運動		落下運動が投下速度運動であることを理解する。		
		運動の法則		運動の3法則、摩擦力や浮力、運動方程式などの公式を使い理解する。		
2 学 期	期末	さまざまな力		運動の3法則、摩擦力や浮力、運動方程式などの公式を使い理解する。		
		仕事と力学的エネルギー		仕事の原理について学び、仕事とエネルギーの関連性を理解する。		
2 学 期	期末	熱と物質の状態		熱運動や内部エネルギー、物質の三態について理解する。		
		熱と仕事		熱力学第一法則や熱機関について学ぶ。		
3 学 期	学年末	波の性質		波の表し方や伝わり方、横波や縦波などを理解する。		
		音と振動		音も波であることを確認し、固有振動について理解する。		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 特進コースI&Sクラス		理科	生物基礎	必修	2単位	村山 洋
教科書	東京書籍「生物基礎」		副教材等	東京書籍「ニューステップアップ生物基礎」		
授業のねらい	現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。また受験に備え、自学自習のポイントを身に付ける。					
学習上の留意点	生物の独自ノートを作る。板書事項を必ずノートに取る。プリントを必ず提出する。					
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、小テスト、平常点を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	生物の特徴 生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー		<ul style="list-style-type: none"> 生物の特徴の1つの多様性と共通性について学ぶ。 多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。 エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPIについて学ぶ。 		
	期末	遺伝子とそのはたらき 遺伝情報とDNA		<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 歴史的な研究成果を追いながら、遺伝子の本体やDNAの構造の解明の経緯について学ぶ。 体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について学ぶ。 		
2 学 期	中間	遺伝情報とタンパク質 ヒトの体の調節 体内環境と情報伝達		<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。 体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓の働きを学ぶ。腎臓における過剰再吸収のしくみにより、老廃物は濃縮して尿とし、必要な物質は血液中に残すはたらきを理解する。 		
	期末			<ul style="list-style-type: none"> 自律神経とホルモンによる体内環境の調節のしくみを学ぶ。 ホルモンを分泌する内分泌腺と汗や消化液などを分泌する外分泌腺との構造上の違いについて学ぶ。 		
3 学 期	学年末	免疫のはたらき 免疫のしくみ 免疫とさまざまな疾患		<ul style="list-style-type: none"> 異物の体内への侵入を防いだり、排除するしくみを学ぶ。 自然免疫と体液性免疫など複雑な免疫機構について学ぶ。 アレルギーやアナフィラキシーショック、AIDSについて学ぶ。 		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
1年生 進学コースAクラス		理科	生物基礎	必修	2単位	山下 遥・三浦 敏 村山 洋
教科書	東京書籍 「生物基礎」		副教材等	東京書籍 「ニューアチーブ生物基礎」		
授業のねらい	現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。また、映像授業や、観察・実験から科学的なリテラシーを養う。					
学習上の留意点	生物の独自ノートを作る。板書事項を必ずノートに取る。プリントを必ず提出する。					
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、小テスト、平常点を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	生物の特徴 生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー		生物の多様性と共通性について学ぶ。 原核・真核生物の細胞づくりの違いを知る。 代謝(異化・同化)とATPIについて学ぶ。		
	期末	遺伝子とそのはたらき 遺伝情報とDNA		遺伝子の本体がDNAであることの証明実験について学ぶ。 DNAの構造と特徴について学ぶ。 体細胞分裂におけるDNAの複製と分配について学ぶ。		
2 学 期	中間	遺伝情報とタンパク質 ヒトの体の調節 体内環境と情報伝達		遺伝情報の発現の流れについて学ぶ。 体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓の働きを学ぶ。 腎臓における尿生成(ろ過、再吸収)のしくみについて学ぶ。		
	期末			自律神経とホルモンによる体内環境の調節について学ぶ。 内分泌線、外分泌腺の差異について学ぶ。		
3 学 期	学年末	免疫のはたらき		自然免疫による異物の排除のしくみを学ぶ。 適応免疫による複雑な免疫機構について学ぶ。 アレルギーやアナフィラキシーショック、AIDSについて学ぶ。		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースI&Sクラス(理系)		理科	物理	必修選択	2単位	樋口 雅浩
教科書	数研「物理」		副教材等	数研「新課程 リードLightノート物理基礎」 数研「新課程 リードLightノート物理」		
授業のねらい	自然現象を物理基礎で学習したことを基にして学んでいきます。 また、共通テストや一般受験に対応できる力を身につけます。					
学習上の留意点	現象について理解し、公式を覚えるだけでなく意味についても考えるようにすること。					
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、実力テスト、授業内で行う小テスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	音と振動 電流と電気抵抗 電流と磁界 エネルギーとその利用		音も波であることを確認し、固有振動について理解する。 電気の基本について学び、接続方法などを理解する。 磁界の基本について学び、発電機の原理を理解する。 現在使用されているエネルギーについてを考える。		
	期末	剛体にはたらく力のつり合い		力のつり合い・合成、力のモーメントについて理解する。		
2 学 期	中間	さまざまな運動		放物運動や円運動、単振動など力学全般について理解する。		
	期末	運動量		運動量や保存則、反発係数について理解する。		
3 学 期	学年末	熱		気体の分子運動や状態変化、熱力学第二法則を理解する。		

2026年度 シラバス

対象	教科	科目名	単位	担当者
2年生 進学コースAクラス(理系)	理科	物理	必修選択 2単位	鞠子 和也
教科書	数研「物理」		副教材等	<small>数研 新課程 フォローアップドリル物理① 力と運動・熱と気体 新課程 フォローアップドリル物理② 波 新課程 フォローアップドリル物理③ 電気と磁気 新課程 フォローアップドリル物理④ 原子</small>
授業のねらい	自然現象を物理基礎で学習したことを基にして学んでいきます。 また、共通テストや一般受験に対応できる力を身につけます。			
学習上の留意点	現象について理解し、公式を覚えるだけでなく意味についても考えるようにすること。			
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、実力テスト、授業内で行う小テスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。			
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。			
学習計画	考査	単元	学習目標	
1 学 期	中間	剛体にはたらく力のつり合い	力のつり合い・合成、力のモーメントについて理解する。	
	期末	さまざまな運動	放物運動や円運動、単振動など力学全般について理解する。	
2 学 期	中間	運動量	運動量や保存則、反発係数について理解する。	
	期末	熱	気体の分子運動や状態変化、熱力学第二法則を理解する。	
3 学 期	学年末	波	波の性質や音、光について理解する。	

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースSクラス(文系)		理科	化学基礎	必修	2単位	伊藤 和果 山内 優斗
教科書	啓林館「i版 化学基礎」		副教材等	第一学習社「ネオパルノート化学基礎」		
授業のねらい	化学的な知識とその実践法を実験および実習により育成する。 原子・分子から説き起こし、物質の成り立ち、その反応と変化、中和反応、酸化還元反応などを扱う。					
学習上の留意点	化学は実際の物質の性質・変化を洞察する学問である。したがって実験、実習を重視する。授業に対する理解度を高めるため、小テストを適宜行う。					
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、実力テスト、授業内で行う小テスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	物質の構成		物質を構成する元素と基本的な元素記号を覚える。 混合物から純物質を分離する手法を学ぶ。		
		原子の構造		原子はさらに微細な粒子から構成されていることを学ぶ。		
1 学 期	期末	物質と化学結合		周期表の規則性を理解し、同族元素の類似性を学ぶ。 元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。		
		物質と化学結合		周期表の規則性を理解し、同族元素の類似性を学ぶ。 元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。		
2 学 期	中間	物質質量と化学反応式		化学の計算上、有効なモルの概念を理解する。 化学反応式の表す係数の意味を理解する。		
		酸と塩基		酸と塩基の定義を理解する。		
2 学 期	期末	中和反応		酸と塩基の反応により生じる塩とその性質について学ぶ。		
		中和滴定		中和反応の量的関係を理解する。中和滴定の操作を学ぶ。		
3 学 期	学年末	酸化還元反応		酸化と還元の定義を理解する。 酸化数を計算し、酸化数の増減から酸化された物質、還元された物質を判断できるようにする。		
		金属のイオン化傾向		イオン化傾向の違いから観察される種々の現象を理解する。		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースSクラス(理系)		理科	化学基礎	必修	2単位	山下 遥
教科書	啓林館「i版 化学基礎」		副教材等	第一学習社「セミナー 化学基礎+化学」 実教出版「サイエンスビュー化学総合資料」 浜島書店「新訂版リピートノート化学③」		
授業のねらい	化学的な知識とその実践法を実験および実習により育成する。 原子・分子から説き起こし、物質の成り立ち、その反応と変化、中和反応、酸化還元反応などを扱う。					
学習上の留意点	化学は実際の物質の性質・変化を洞察する学問である。したがって実験、実習を重視する。また、授業に対する理解度を高めるため、小テストを適宜行う。3学期には「化学」の理論化学分野を学習する。					
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、実力テスト、授業内で行う小テスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画		単元		学習目標		
1 学 期	中間	物質の構成 原子の構造	物質を構成する元素と基本的な元素記号を覚える。 混合物から純物質を分離する手法を学ぶ。 原子はさらに微細な粒子から構成されていることを学ぶ。 周期表の規則性を理解し、同族元素の類似性を学ぶ。			
	期末	物質と化学結合 物質質量と化学反応式	元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。 化学の計算上、有効なモルの概念を理解する。 化学反応式の表す係数の意味を理解する。			
2 学 期	中間	酸と塩基 中和反応 酸化還元反応	酸と塩基の定義を理解する。 酸と塩基の反応により生じる塩とその性質について学ぶ。 酸化還元の定義を理解する。			
	期末	金属のイオン化傾向 電池と電気分解	イオン化傾向の違いから観察される種々の現象を理解する。 電池の原理を理解し、電池や電気分解の量的関係を理解する。			
3 学 期	学年末	化学結合と物質の状態 物質の三態と熱運動 溶液の性質	結晶格子の名前と含まれる粒子の数や大きさを理解する。 化学結語の種類と特徴を理解する。 熱運動と蒸気圧曲線の関係を図表を用いて理解する。 沸点上昇・凝固点降下・浸透圧の計算ができる。			

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス(理系)		理科	化学基礎	必修	3単位	富田 弥千代 山下 遥
教科書	啓林館「i版 化学基礎」		副教材等	第一学習社「ネオパルノート化学基礎」		
授業のねらい	化学的な知識とその実践法を実験および実習により育成する。 原子・分子から説き起こし、物質の成り立ち、その反応と変化、中和反応、酸化還元反応などを扱う。					
学習上の留意点	化学は実際の物質の性質・変化を洞察する学問である。したがって実験、実習を重視する。授業に対する理解度を高めるため、小テストを適宜行う。					
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、実力テスト、授業内で行う小テスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画		単元		学習目標		
1 学 期	中間	物質の構成	物質を構成する元素と基本的な元素記号を覚える。 混合物から純物質を分離する手法を学ぶ。			
		原子の構造	原子はさらに微細な粒子から構成されていることを学ぶ。			
1 学 期	期末	物質と化学結合	周期表の規則性を理解し、同族元素の類似性を学ぶ。 元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。			
		物質と化学結合	周期表の規則性を理解し、同族元素の類似性を学ぶ。 元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。			
2 学 期	中間	物質質量と化学反応式	化学の計算上、有効なモルの概念を理解する。 化学反応式の表す係数の意味を理解する。			
		酸と塩基	酸と塩基の定義を理解する。			
2 学 期	期末	中和反応	酸と塩基の反応により生じる塩とその性質について学ぶ。			
		中和滴定	中和反応の量的関係を理解する。中和滴定の操作を学ぶ。			
3 学 期	学年末	酸化還元反応	酸化と還元の定義を理解する。 酸化数を計算し、酸化数の増減から酸化された物質、還元された物質を判断できるようにする。			
		金属のイオン化傾向	イオン化傾向の違いから観察される種々の現象を理解する。			

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス(文系)		理科	化学基礎	必修	2単位	山内 優斗・伊藤 和果 三浦 敏
教科書	啓林館「i版 化学基礎」		副教材等	第一学習社「ネオパルノート化学基礎」		
授業のねらい	化学的な知識とその実践法を実験および実習により育成する。 原子・分子から説き起こし、物質の成り立ち、その反応と変化、中和反応、酸化還元反応などを扱う。					
学習上の留意点	化学は実際の物質の性質・変化を洞察する学問である。したがって実験、実習を重視する。授業に対する理解度を高めるため、小テストを適宜行う。					
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、実力テスト、授業内で行う小テスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	物質の構成 原子の構造	物質を構成する元素と基本的な元素記号を覚える。 混合物から純物質を分離する手法を学ぶ。 原子はさらに微細な粒子から構成されていることを学ぶ。			
	期末	物質と化学結合	周期表の規則性を理解し、同族元素の類似性を学ぶ。 元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。			
2 学 期	中間	物質質量と化学反応式	化学の計算上、有効なモルの概念を理解する。 化学反応式の表す係数の意味を理解する。			
	期末	酸と塩基 中和反応 中和滴定	酸と塩基の定義を理解する。 酸と塩基の反応により生じる塩とその性質について学ぶ。 中和反応の量的関係を理解する。中和滴定の操作を学ぶ。			
3 学 期	学年末	酸化還元反応	酸化と還元の定義を理解する。 酸化数を計算し、酸化数の増減から酸化された物質、還元された物質を判断できるようにする。			
		金属のイオン化傾向	イオン化傾向の違いから観察される種々の現象を理解する。			

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 特進コースSクラス(理系)		理科	生物	必修選択	2単位	佐藤 潤
教科書	東京書籍「生物基礎」 第一学習社「生物」		副教材等	東京書籍「ニューステップアップ生物基礎」 第一学習社「セミナーノート生物」		
授業のねらい	「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。					
学習上の留意点	生物の独自ノートを作る。板書事項を必ずノートに取る。プリントを必ず提出する。					
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、小テスト、平常点を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	生物の多様性と生態系 植生と遷移		<ul style="list-style-type: none"> 生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムを学ぶ。 気候条件の違いから、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布を学ぶ。 		
	期末	生態系と生物の多様性		<ul style="list-style-type: none"> 生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみについて理解し、生態系の保全について学ぶ。 		
2 学 期	中間	生命の進化と系統		<ul style="list-style-type: none"> 生命の誕生から進化の歴史を学ぶ。 科学的視点から、進化のしくみについて学ぶ。 生物の系統について学ぶ。 		
	期末	生命現象と物質		<ul style="list-style-type: none"> 細胞の構造とはたらきについて、より発展的に学ぶ。 生物のエネルギー代謝について、より発展的に学ぶ。 		
3 学 期	学年末	代謝		<ul style="list-style-type: none"> 生物のエネルギー代謝について、より発展的に学ぶ。 		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
2年生 進学コースAクラス(理系)		理科	生物	必修選択	2単位	佐藤 潤
教科書	東京書籍「生物基礎」 第一学習社「生物」		副教材等	東京書籍「ニューアチーブ生物基礎」 第一学習社「セミナーノート生物」		
授業のねらい	「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。					
学習上の留意点	生物の独自ノートを作る。板書事項を必ずノートに取る。プリントを必ず提出する。					
評価方法	年4回(1学期期末、2学期中間・期末、3学期学年末)行われる定期試験、小テスト、平常点を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	生物の多様性と生態系 植生と遷移		<ul style="list-style-type: none"> 生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムを学ぶ。 気候条件の違いから、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布を学ぶ。 		
	期末	生態系と生物の多様性		<ul style="list-style-type: none"> 生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみについて理解し、生態系の保全について学ぶ。 		
2 学 期	中間	生命の進化と系統		<ul style="list-style-type: none"> 生命の誕生から進化の歴史を学ぶ。 科学的視点から、進化のしくみについて学ぶ。 生物の系統について学ぶ。 		
	期末	生命現象と物質		<ul style="list-style-type: none"> 細胞の構造とはたらきについて、より発展的に学ぶ。 生物のエネルギー代謝について、より発展的に学ぶ。 		
3 学 期	学年末	代謝		<ul style="list-style-type: none"> 生物のエネルギー代謝について、より発展的に学ぶ。 		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースSクラス(理系)		理科	物理	必修選択	4単位	樋口 雅浩
教科書	数研「物理」		副教材等	数研「新課程 リードLightノート物理」 河合出版「物理のエッセンス」		
授業のねらい	自然現象を物理基礎で学習したことを基にして学んでいきます。 また、共通テストや一般受験に対応できる力を身につけます。					
学習上の留意点	現象について理解し、公式を覚えるだけでなく意味についても考えるようにすること。					
評価方法	年3回(1学期中間・期末、2学期期末)行われる定期試験や授業内で行う小テスト、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	波 電気	波の性質や音、光について理解する。 電界や電位、コンデンサー、電流による磁界や回路、ローレンツ力について理解する。			
	期末	磁気 原子	電磁誘導や交流について理解する。 原子の構造や放射線、核反応について理解する。			
2 学 期	中間	入試問題演習		共通テストや中堅私立大学レベルの問題演習を行う。		
	期末	入試問題演習		進路希望に合わせた入試問題レベルの演習を行う。		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(理系)		理科	物理	必修選択	4単位	鞠子 和也
教科書	数研「物理」		副教材等	数研 新課程 フォローアップドリル物理① 力と運動・熱と気体 新課程 フォローアップドリル物理② 波 新課程 フォローアップドリル物理③ 電気と磁気 新課程 フォローアップドリル物理④ 原子		
授業のねらい	自然現象を物理基礎で学習したことを基にして学んでいきます。 また、共通テストや一般受験に対応できる力を身につけます。					
学習上の留意点	フォローアップドリルを複数使用します。 より多くの問題に触れることを意識してください。					
評価方法	年3回(1学期中間・期末、2学期期末)行われる試験、授業内の小テストを総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	剛体にはたらく力のつり合い		力のつり合い・合成、力のモーメントについて理解する。		
		さまざまな運動		放物運動や円運動、単振動など力学全般について理解する。		
	期末	運動量		運動量や保存則、反発係数について理解する。		
熱		気体の分子運動や状態変化、熱力学第二法則を理解する。				
2 学 期	中間	波		波の性質や音、光について理解する。		
		電気		電界や電位、コンデンサーについて理解する。		
	期末	電流		電流による磁界や回路、ローレンツ力について理解する。		
磁気		電磁誘導や交流について理解する。				
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースSクラス(理系)		理科	物理演習	必修選択	4単位	樋口 雅浩
教科書	数研「物理」		副教材等	数研「新課程 リードLightノート物理」 河合出版「物理のエッセンス」		
授業のねらい	物理の授業で学んだことを演習することで、応用力を養っていきます。					
学習上の留意点	演習を多く熟すことはもちろん、その質についても拘ってもらいたい。					
評価方法	年3回(1学期中間・期末、2学期期末)行われる授業内試験と小テストを総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	波 電気	波の性質や音、光について理解する。 電界や電位、コンデンサー、電流による磁界や回路、ローレンツ力について理解する。			
	期末	磁気 原子	電磁誘導や交流について理解する。 原子の構造や放射線、核反応について理解する。			
2 学 期	中間	入試問題演習		共通テストや中堅私立大学レベルの問題演習を行う。		
	期末	入試問題演習		進路希望に合わせた入試問題レベルの演習を行う。		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(理系)		理科	物理演習	必修選択	2単位	鞠子 和也
教科書	数研「物理」		副教材等	数研 新課程 フォローアップドリル物理① 力と運動・熱と気体 新課程 フォローアップドリル物理② 波 新課程 フォローアップドリル物理③ 電気と磁気 新課程 フォローアップドリル物理④ 原子		
授業のねらい	理系大学希望者に対し、物理全般の基礎を固める。					
学習上の留意点	物理現象を理解し、計算するだけでなく応用力を身につけるよう意識すること。					
評価方法	授業内に実施する小テスト・確認テスト、平常点によって評価する。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	剛体にはたらく力のつり合い		力のつり合い・合成、力のモーメントについて理解する。		
		さまざまな運動		放物運動や円運動、単振動など力学全般について理解する。		
	期末	運動量		運動量や保存則、反発係数について理解する。		
熱		気体の分子運動や状態変化、熱力学第二法則を理解する。				
2 学 期	中間	波		波の性質や音、光について理解する。		
		電気		電界や電位、コンデンサーについて理解する。		
	期末	電流		電流による磁界や回路、ローレンツ力について理解する。		
磁気		電磁誘導や交流について理解する。				
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースSクラス(理系)		理科	化学	選択必修	4単位	山下 遥
教科書	東京書籍「化学 Vol.1 理論編」 東京書籍「化学 Vol.2 物質編」		副教材等	浜島書店「新リポートノート化学③」 浜島書店「新リポートノート化学④」 浜島書店「新リポートノート化学⑤」		
授業のねらい	2学年化学基礎で学んだ知識や手法をさらに応用し、より高度な化学的探究のための知識と実践法を養成する。気体や溶液の性質、化学反応が進行するしくみ、身近な無機化合物、有機化合物、現代社会を支える高分子の性質など幅広く学習する。					
学習上の留意点	2年次に学んだ化学基礎の知識を必要とするので、十分に復習しておくこと。また、受験に向けて問題演習を行う。					
評価方法	年3回(1学期中間・期末、2学期期末)行われる定期試験、授業内で行う小テスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	物質とエネルギー		エンタルピー変化の計算ができるようにする。		
		化学反応の速さと平衡		弱酸、弱塩基、緩衝液のpHを計算できるようにする。		
	期末	無機化学		無機化合物の性質や製法を理解する。		
高分子化学		身近な高分子化合物の製法や性質を理解する。				
2 学 期	中間	入試に向けた総復習		化学で学んだ知識を総動員させ、自力で入試問題を解く。		
	期末					
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(理系)		理科	化学	選択必修	4単位	富田 弥千代
教科書	東京書籍「化学 Vol.1 理論編」 東京書籍「化学 Vol.2 物質編」		副教材等	浜島書店「新訂版リポートノート化学③」 浜島書店「新訂版リポートノート化学⑤」 数研出版「改訂版 フォトサイエンス 化学図録」		
授業のねらい	2学年化学基礎で学んだ知識や手法をさらに応用し、より高度な化学的探究のための知識と実践法を養成する。気体や溶液の性質、化学反応が進行するしくみ、身近な無機化合物、有機化合物、現代社会を支える高分子の性質など幅広く学習する。					
学習上の留意点	2年次に学んだ化学基礎の知識を必要とするので、十分に復習しておくこと。 また、四則演算に始まり、比例、指数、対数等の数学的手法に習熟していることが望ましい。					
評価方法	年3回(1学期中間・期末、2学期期末)行われる定期試験、授業内で行う小テスト、実験レポート、授業態度を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画		単元		学習目標		
1 学 期	中間	化学結合と結晶 物質の三態と熱運動 気体と液体の性質		基本的な結晶構造を立体的に捉える。 物質の物理変化に関する現象・用語の定義を学ぶ。 既知の現象について、種々の法則を用いて理解する。		
	期末	熱化学方程式 電池・電気分解 反応速度と平衡		ヘスの法則を用いて計算する。 電池の原理と電気分解の量的関係を理解する。 ルシャトリエの原理による平衡の移動を理解する。		
2 学 期	中間	有機化学 脂肪族炭化水素 芳香族炭化水素		有機化合物の特徴を理解する。 異性体を含め、分子式から構造式が書けるようにする。 官能基の性質や特徴を理解する。		
	期末	高分子化学 無機化学		身近な高分子化合物の製法や性質を理解する。 無機化合物の性質や製法を理解する。		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースSクラス(理系)		理科	化学演習	選択必修	4単位	富田 弥千代
教科書	東京書籍「化学基礎」 東京書籍「化学 Vol.1 理論編」 東京書籍「化学 Vol.2 物質編」	副教材等	数研出版「2026化学重要問題集 化学基礎・化学」			
授業のねらい	2学年の化学基礎で学んだ知識や手法を定着させ、一般受験に向けた高度な見方・考え方・理解を促す。目標とする難関私大、共通テスト、国公立大学2次試験に向けた問題演習を進める。					
学習上の留意点	2年次に学んだ化学基礎の知識を必要とするので、十分に復習しておくこと。また、受験に向けて問題演習を行う。					
評価方法	授業内で実施する小テスト、確認テスト、実験レポートを含めた提出物、平常点により総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	共通テスト対策 私大・国公立2次試験対策		昨年度までの傾向をもとに志望校・併願校の入試問題対策を行い、実践的な力を養う。		
	期末					
2 学 期	中間					
	期末					
3 学 期	学年末	▼		▼		

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(理系)		理科	化学演習	選択必修	2単位	伊藤 和果
教科書	東京書籍「化学基礎」		副教材等	浜島書店「基本 ステップノート 化学基礎 カラー版」		
授業のねらい	2学年の化学基礎で学んだ知識について、実験・演習を通して実感を伴った理解を深める。					
学習上の留意点	2年次に学んだ化学基礎の知識を必要とするので、十分に復習しておくこと。					
評価方法	授業内で実施する小テスト、確認テスト、実験レポートを含めた提出物、平常点により総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	物質の構成 原子の構造	物質を構成する元素と基本的な元素記号を覚える。 混合物から純物質を分離する手法を学ぶ。 原子はさらに微細な粒子から構成されていることを学ぶ。			
	期末	物質と化学結合 物質質量と化学反応式	周期表の規則性を理解し、同族元素の類似性を学ぶ。 元素の組み合わせによる結合様式の違いを理解する。 化学の計算上、有効なモルの概念を理解する。 化学反応式の表す係数の意味を理解する。			
2 学 期	中間	酸と塩基 中和反応 中和滴定	酸と塩基の定義を理解する。 酸と塩基の反応により生じる塩とその性質について学ぶ。 中和反応の量的関係を理解する。中和滴定の操作を学ぶ。			
	期末	酸化還元反応 金属のイオン化傾向	酸化還元反応の定義を理解する。 酸化数の計算し、酸化数の増減から酸化された物質、還元された物質を判断できるようにする。 イオン化傾向の違いから観察される種々の現象を理解する。			
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースSクラス(理系)		理科	生物	必修選択	4単位	佐藤 潤
教科書	第一学習社「生物」		副教材等	第一学習社「セミナーノート生物」 第一学習社「セミナー生物基礎+生物」		
授業のねらい	「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。					
学習上の留意点	生物の独自ノートを作る。板書事項を必ずノートに取る。プリントを必ず提出する。					
評価方法	年3回(1学期中間・期末、2学期期末)に行われる定期試験、平常点を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	代謝 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> 炭酸同化について学び、光合成の過程しくみを理解する。 DNAの構造と複製について学ぶ。 転写、翻訳について学ぶ。 			
	期末	遺伝子の発現調節と発生 生殖と発生	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の発現調節、バイオテクノロジーについて学ぶ。 生殖のしくみ、減数分裂、ウニの発生、カエルの発生について学ぶ。 			
2 学 期	中間	生物の環境応答 生態と環境	<ul style="list-style-type: none"> 動物が体内外の情報を得て反応を起こすしくみを学ぶ。 動物のいろいろな行動とそのしくみについて学ぶ。 植物ホルモンと環境応答のしくみについて学ぶ。 生物と環境の相互作用に目を向ける。 生態学的相互作用と物質やエネルギーとの関係性を学ぶ。 生物多様性という視点から生態系の保全を学ぶ。 			
	期末	入試に向けた総復習	<ul style="list-style-type: none"> これまでの生物と生物基礎の内容を踏まえて全体の知識や理論を整理する。 			
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(理系)		理科	生物	必修選択	4単位	村山 洋
教科書	第一学習社「生物」		副教材等	第一学習社「セミナーノート生物」 第一学習社「セミナー生物基礎+生物」		
授業のねらい	「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。					
学習上の留意点	生物の独自ノートを作る。板書事項を必ずノートに取る。プリントを必ず提出する。					
評価方法	年3回(1学期中間・期末、2学期期末)に行われる定期試験、平常点を総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	代謝	遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> 炭酸同化について学び、光合成の過程しくみを理解する。 DNAの構造と複製について学ぶ。 転写、翻訳について学ぶ。 		
	期末	遺伝子の発現調節と発生	生殖と発生	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の発現調節、バイオテクノロジーについて学ぶ。 生殖のしくみ、減数分裂について学ぶ。 		
2 学 期	中間	生物の環境応答		<ul style="list-style-type: none"> 発生のしくみ、ウニの発生、カエルの発生について学ぶ。 動物が体内外の情報を得て反応を起こすしくみを学ぶ。 動物のいろいろな行動とそのしくみについて学ぶ。 植物ホルモンと環境応答のしくみについて学ぶ。 		
	期末	生態と環境		<ul style="list-style-type: none"> 生物と環境の相互作用に目を向ける。 生態学的相互作用と物質やエネルギーとの関係性を学ぶ。 生物多様性という視点から生態系の保全を学ぶ。 		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 特進コースSクラス(理系)		理科	生物演習	必修選択	4単位	佐藤 潤
教科書	東京書籍「生物基礎」 第一学習社「生物」		副教材等	第一学習社「セミナー生物基礎+生物」		
授業のねらい	看護医療系、農学系、自然科学系に進学を希望する生徒に1年次に履修した「生物基礎」の復習を中心に、グラフや表等を用いる実験問題の演習を行う。					
学習上の留意点	生物の独自ノートを作る。板書事項を必ずノートに取る。プリントを必ず提出する。1年次に使用した生物基礎の教科書・ノート・問題集を持参すること。					
評価方法	授業内に実施する小テスト・確認テスト、平常点によって評価する。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	生物の特徴 生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー		<ul style="list-style-type: none"> 生物の特徴の1つの多様性と共通性について学ぶ。 身のまわりの原核細胞・真核細胞の構造を理解する。 多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。 エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて学ぶ。 		
	期末	遺伝子とそのはたらき 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質の合成		<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 歴史的な研究成果を追いながら、遺伝子の本体やDNAの構造の解明について、それぞれの経緯を理解する。 体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について学ぶ。 遺伝情報がタンパク質合成という形で現れる過程を理解する。 		
2 学 期	中間	生物の体内環境の維持 体内環境 体内環境の調節 免疫		<ul style="list-style-type: none"> 体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などのはたらきを学ぶ。 腎臓におけるろ過と再吸収のしくみにより、老廃物は濃縮して尿とし、必要な物質は血液中に残すはたらきを理解する。 自律神経とホルモンによる体内環境の調節の理解する。 異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除するしくみを学ぶ。 		
	期末	生物の多様性と生態系 植生の多様性と分布 気候とバイオーム 生態系とその保全		<ul style="list-style-type: none"> 生態系の成り立ちと植生の果たす役割の理解。 気候条件の違いにもとづいて、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布について学ぶ。 生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみについて理解し、生態系の保全について学ぶ。 		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(理系)		理科	生物演習	必修選択	2単位	村山 洋
教科書	東京書籍「生物基礎」 第一学習社「生物」		副教材	第一学習社「セミナー生物基礎+生物」		
授業のねらい	看護医療系、農学系、自然科学系に進学を希望する生徒に1年次に履修した「生物基礎」の復習を中心に、グラフや表等を用いる実験問題の演習を行う。					
学習上の留意点	生物の独自ノートを作る。板書事項を必ずノートに取る。プリントを必ず提出する。1年次に使用した生物基礎のノートと東京書籍「ニューアチーブ生物基礎」を持参すること。					
評価方法	授業内に実施する小テスト・確認テスト、平常点によって評価する。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	生物の特徴 生物の多様性と共通性 生命活動とエネルギー		<ul style="list-style-type: none"> 生物の特徴の1つの多様性と共通性について学ぶ。 身のまわりの原核細胞・真核細胞の構造を理解する。 多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。 エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて学ぶ。 		
	期末	遺伝子とそのはたらき 生物と遺伝子 遺伝情報の分配 遺伝情報とタンパク質の合成		<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 歴史的な研究成果を追いながら、遺伝子の本体やDNAの構造の解明について、それぞれの経緯を理解する。 体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について学ぶ。 遺伝情報がタンパク質合成という形で現れる過程を理解する。 		
2 学 期	中間	生物の体内環境の維持 体内環境 体内環境の調節 免疫		<ul style="list-style-type: none"> 体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などのはたらきを学ぶ。 腎臓におけるろ過と再吸収のしくみにより、老廃物は濃縮して尿とし、必要な物質は血液中に残すはたらきを理解する。 自律神経とホルモンによる体内環境の調節の理解する。 異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除するしくみを学ぶ。 		
	期末	生物の多様性と生態系 植生の多様性と分布 気候とバイオーム 生態系とその保全		<ul style="list-style-type: none"> 生態系の成り立ちと植生の果たす役割の理解。 気候条件の違いにもとづいて、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布について学ぶ。 生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみについて理解し、生態系の保全について学ぶ。 		
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス(理系)		理科	理数探究基礎	必修	2単位	山下 遥・山内 優斗
教科書	数研出版「理数探究基礎」		副教材等	なし		
授業のねらい	さまざまな事象に関わり、数学的な見方や考え方、また理科の見方や考え方を組み合わせるなどして、探究の過程を通して課題を解決するために必要な基本的な資質や能力を育成することを目的とする。					
学習上の留意点	実験を通じたレポート作成やグループワークを主とするため、生徒に主体的な取り組みを求める。また、履修済の数学Ⅰの「データの分析」は多用するため、本質的な理解を求める。					
評価方法	授業内でおこなう小テスト、実験レポート、プレゼンテーション、出席を含めた授業態度について総合的に評価。					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	さまざまな事象を数学的・理学的に考察する内容		探究の過程を通して課題を解決できるようになる。 データから過不足なく考察を導くことができる。		
	期末					
2 学 期	中間					
	期末					
3 学 期	学年末					

2026年度 シラバス

対象		教科	科目名	単位		担当者
3年生 進学コースAクラス		理科	理科探究	選択必修	2単位	佐藤 潤・山内 優斗
教科書	なし		副教材等	なし		
授業のねらい	さまざまな事象に関わり、理科学的な見方や考え方をを用いて、探究の過程を通して課題を解決するために必要な基本的な資質や能力を育成することを目的とする。					
学習上の留意点	実験を通じたレポート作成やグループワークを主とするため、生徒に主体的な取り組みを求める。また、履修済の「化学基礎」、「生物基礎」、「物理基礎」の内容は多用するため、本質的な理解を求める。					
評価方法	レポート、プレゼンテーション資料および発表、平常点で評価する。□					
観点別評価	以下の3観点をそれぞれ、ABCで評価する。①知識及び技能の習得できているかの評価②知識及び技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかどうかの評価③知識・技能や思考力・判断力・表現力を身につけるために、自ら積極的に学ぼうとする姿勢があるかの評価。					
学習計画	考査	単元		学習目標		
1 学 期	中間	さまざまな事象を理科学的に考察する内容		探究の過程を通して課題を解決できるようになる。 データから過不足なく考察を導くことができる。		
	期末					
2 学 期	中間					
	期末					
3 学 期	学年末					